

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



4面

インタビュー

全農経営管理委員 荒川隆氏

(広報・調査部)

6-7面

「新たなJA営農経済事業支援」
取り組み開始

(経営企画部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

全農 ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

News!



秋田ノーザンハピネッツ選手と田植え

B1 チーム、JA、農業高校と「サキホコレ」応援

秋田県本部



田植えに参加した大曲農業高校生と秋田ノーザンハピネッツの選手

秋田ノーザンハピネッツが日本一を誓う「821」、秋田米「サキホコレ」の系統名「秋系821」から名付けた「HAPPY TOGETHER ONE」と題した企画です。「サキホコレ」の農作業体験を行い、収穫した米を同チームへ贈呈して一層の活躍を応援するほか、「サキホコレ」をPRし、秋田米全体を盛り上げることを目的として2021年度から活動しています。

イベントは、「秋田米新品種サキホコレ研究会」の佐々



秋田ノーザンハピネッツの選手と手植え

木竜孝会長の田んぼで行われ、秋田ノーザンハピネッツからは栗原翼選手と金久保翔選手が参加しました。両選手は、田植え機の操作方法を教わりながら慎重に操縦しました。その後の手植え体験では、大曲農業高校生と会話を楽しみながら一つ一つ丁寧に苗を植えました。栗原選手は「自分たちで植えた苗が収穫できる日を楽しみにしている」と話していました。

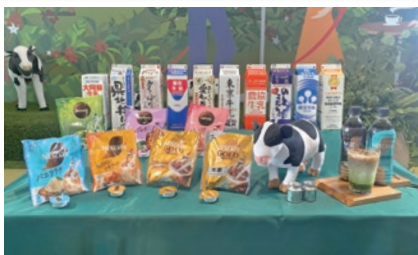
News!



ネスレ×全農、6月牛乳月間でイベント共催

6月30日まで東京・原宿で開催、アイスラテをPR

酪農部



10種類のご当地牛乳とネスカフェ商品



メディア発表会で登壇する富澤氏

このイベントは「牛乳でスマイルプロジェクト」をきっかけに、6月の牛乳月間に合わせて、アイスラテの魅力を知っていただくことを目的に企画されました。

濃縮タイプ飲料「ネスカフェ/ネスレポーション」を使用したラテお楽しみセット（700円）では、地域別に選んだご当地牛乳10種類のうち、3〜4種の牛乳（各30ミリの試飲と、お好みの牛乳（150ミリの）とポーションを組み合わせたアイスラテを楽しむことができます。また、「ネスカフェ エスプレッソ」のラテアレンジメニュー（全4種、各680円）では、農協牛乳などのご当地牛乳を使用し、いずれも期間中に3回に分けて提供します。

店内は牛のぬいぐるみや、牧場のジオラマで装飾され、ご当地牛乳の紹介パネルが設置されることで、ミニ牧場の雰囲気味わうことができます。

イベント初日にはメディア発表会が行われ、酪農家の富澤裕敏氏が登壇し、牛乳の消費拡大やイベントへの期待を語りました。

全農とネスレ日本株式会社は、5月29日から6月30日まで、東京・原宿の「ネスカフェ 原宿」で、ご当地牛乳の飲み比べや「ネスカフェ」の濃縮タイプ飲料を楽しめるセット、ラテアレンジメニューを提供しています。



全国農協CE協議会が第53回総代会など開催

上級オペレーター 10人認定、優良農協CE8施設を表彰

米穀部

令和6年度上級オペレーター認定者(敬称略)

県名	農協名	施設名	氏名
宮城	新みやぎ農業協同組合	南郷カントリーエレベーター	小高 紳吾
	みやぎ登米農業協同組合	なかだカントリーエレベーター	千葉 和美
茨城	北つくば農業協同組合	協和カントリーエレベーター	綿引 秀考
新潟	みなみ魚沼農業協同組合	六日町カントリーエレベーター	上村 祥吉
岐阜	いび川農業協同組合	池田カントリーエレベーター	高橋 大貴
三重	みえなか農業協同組合	西部カントリーエレベーター	笠井 直紀
兵庫	兵庫みらい農業協同組合	加西カントリーエレベーター	藤本 和久
香川	香川県農業協同組合	宝山・豊中カントリーエレベーター	安藤 修一
福岡	筑前あさくら農業協同組合	馬田カントリーエレベーター	下田屋 和孝
熊本	玉名農業協同組合	岱明カントリーエレベーター	原口 伊織

総代会に併せて実施した上級オペレーター認定式では、新たに10人が認定されました。また、農林水産省、農業倉庫基

金、全農の後援を得て5年に一度の優良農協カントリーエレベーター表彰を開催し、全国8施設が受賞しました。

受賞施設の優れた運営体制や取り組みを全国に共有し、今後、各施設の運営に生かしていきます。

全国農協カントリーエレベーター協議会(以下、CE協議会)は6月4日、東京・大手町のJAビルで第53回総代会、上級オペレーター認定式、優良農協カントリーエレベーター表彰式を開催しました。

令和7年度優良農協カントリーエレベーター表彰受賞施設一覧

表彰名	県名	農協名	施設名
農林水産大臣賞	福岡	みい農業協同組合	八坂カントリーエレベーター
農林水産省農産局長賞	岩手	岩手中央農業協同組合	矢巾カントリーエレベーター
全国農業協同組合連合会会長賞	秋田	秋田おほこ農業協同組合	六郷カントリーエレベーター
公益財団法人農業倉庫基金理事長賞	広島	ひろしま農業協同組合	千代田カントリーエレベーター
全国農協カントリーエレベーター協議会会長賞	長野	上伊那農業協同組合	南箕輪カントリーエレベーター
全国農協カントリーエレベーター協議会会長賞	新潟	えちご中越農業協同組合	柏崎カントリーエレベーター
全国農協カントリーエレベーター協議会会長賞	佐賀	佐賀県農業協同組合	久保田カントリーエレベーター
全国農協カントリーエレベーター協議会会長賞	熊本	上益城農業協同組合	嘉島カントリーエレベーター



新しいJAでんきのPR動画を制作

「カンタン」「おトク」「安心」認知度向上・利用拡大へ

総合エネルギー部



JAでんき新PR動画のワンシーン

HPはこちら▶



「ゆるふわちゃんねる」でも配信します。

JAでんきは、組合員家庭や営農施設、JAグループ施設向けに供給しており、2025年5月時点で契約件数は約9万1000件と多くの方に利用いただいています。JAでんきのさらなる認知度向上・利用拡大を目的として新しいPR動画を制作しました。動画はJAでんきホームページから閲覧することができ、JAの支店や店舗、展示会、イベントなどでも活用することができます。

全農は、JAでんきの新しいPR動画を制作しました。JAタウン公式応援大使でもあるタレントの根本凪さんを起用し、JAでんきの「カンタン」「おトク」「安心」の三つのアピールポイントについて説明しています。

「インタビュー」全農経営管理委員 荒川隆氏

新著『食料安全保障と農政改革』を発刊——農政の本質を問う

大転換期を迎えた日本農業と農政を読み解いた書籍『食料安全保障と農政改革』が4月25日、日本農業新聞より発刊されました。著者は農水省職員として、深く農政に関わってきた荒川隆氏。同紙の人気コラム「農政岡目八目」を、直近の情勢を加えて分かりやすくまとめています。発刊に込めた思いをうかがいました。

——コラム執筆の思いを教えてください。

農水省退職後にご縁があり、同紙に農政をテーマにした8回連載を執筆しました。想像以上に反響があつて、2021年から

【広報・調査部】

長期の連載「農政岡目八目」になりました。公務員は、時の政策運営にいろいろな思いを抱いているものですが、立场上、表立って社会に発信はできません。一方、農業や食品事業などの関係者の



あらかわ・たかし 1959年宮城県生まれ。82年農林水産省に入省、食糧部長、畜産部長、官房長、農村振興局長などを歴任し、2018年退官。20年3月からJA全農経営管理委員、21年6月から一般財団法人食品産業センター理事長。日本農業新聞のコラム「農政岡目八目」（月1回、第3水曜日掲載）に寄稿している。

方々でも、農政への誤解や思い込みなどを持っている人が少なくありません。そこで、公務員が対外的に発信できない思い

農水省OBの農政解説

——「まともな農水省OBの農政解説」という副題が印象的です。

同省OBや農政の事情通と呼ばれる方たちの発信とは、一線を画していることを強調しました。農業、食料への国民の関心は高まっているものの、まともな情報が入り込んでいないのは言い難いです。第2章冒頭のコラム「なぜ日本農業は、いつまでも課題山積なのか」は、多くの方が抱えている疑問を解決する一助になればと思います。本書の随所に挿入したゴシック体の部分は、執筆當時を「どう振り返るか」という

視点で新たに書き下ろしたので、新聞連載を読んだ方もぜひ、手にとってほしいと思います。食料・農業・農村基本法の改正など大きな農政の動きも解説しています。

——直接支払いについても言及していますね。

国内農業存続には、輸出国との圧倒的な条件格差を是正するため、国境措置や直接支払いが必要です。昨今、米の価格高騰について一部のメディアは視聴率稼ぎのような報道を繰り返していますが、結果として直接支払いについて国民的な議論ができるようになったことは、唯一良かった点かもしれません。

自信と誇りを持って

——JAグループへのメッセージをお願いします。

1点目は「油断するな」と伝えたいです。JAグループは自己改革に取り組み、社会から評価を受けていますが、いつ風向きが変わるか分かりません。これからも国民に対して、JAを正しく理解してもらえようという取り組みを続けていくことが大事です。2点目は「胸を張ってほしい」

ということ。全農経営管理委員として、職員の皆さんが本心に張りついているということを強く感じます。JAは地域に根差した組織。農業はもちろん、地域社会を支える担い手であるということに自信と誇りをもって、頑張ってください。



読者プレゼント

新著『食料安全保障と農政改革』の荒川氏サイン本を25名様にプレゼントします。



応募先 ご応募はこちらから▶

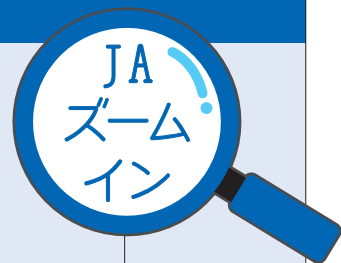
締め切り 2025年7月14日(月)23時59分

※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



ほじょう
圃場巡回で品質の均一化を図る

JAうおづは、富山県東部に位置し、「蟹気楼しんきろうの見える町」として有名な魚津市を管内としています。天然のいけす“ともいわれる富山湾に面した海岸部から2000坪を超える北アルプスまで、約25キロという世界でもまれな急勾配の地形が、蟹気楼、ホテルイカ、埋



独自栽培で高品質な「新川大根」に 経営体の大規模化に対応した農機具センター

没林などの自然を育み、それに伴う文化や食をもたらしています。農業は水稻を中心に、野菜や果樹の栽培も盛んに行われています。

風通しと水はけ改善へ 一条高畝深層施肥農法

通常のダイコン栽培では、収量を増やすために一つの畝で2列を育てる「2条植え」を行います。新川大根は1列で育てます。また、畝は膝丈ほどの高さに作り、その底の深い部分（畦直下30センチ）に肥料を施します。この方法は「一条高畝深層施肥農法」と呼ばれます。このような独自の栽培方法により、風通しと水はけが良くなり、病害虫の発生が抑えられ、



美人ダイコンとも称される「新川大根」

農薬を少なくすることができ、また、肥料を土全体に混ぜ込むのではなく、根が伸びる先の深い部分にだけ施すことで、「ひげ根」がほとんど伸びず、表面のくぼみが少なく、つるつるの根を真っすぐに伸ばす高品質なダイコンが育ちます。

JAうおづ (富山県)



農機具センターの新築で さらに迅速丁寧サービス

農業の経営体が営農組合などとして組織化、大規模化していることで、大型機械の導入が進むなど農業の形態が変化しており、かねてよりそのことに対応できる施設が求められていました。

旧農機具センターは築42年が経過しており、老朽化も進んでいたことから、2022年12月に全農富山一級建築士事務所による設計・監理のもとで工事を進め、23年10月に同敷地内に新しく建設しました。

この農機具センターは、組合員から持ち込まれた農機具の修理・整備や点検な



新たに完成した農機具センター

どを行う施設となっています。農機具センターの完成を機に、より一層組合員の皆さまへの迅速丁寧なサービスを提供し、営農を強力にバックアップします。

概要	2024年12月31日現在
正組合員数	2422人
准組合員数	4148人
職員数	93人
販売品取扱高	19億5千万円
購買品取扱高	13億5千万円
貯金残高	644億円
長期共済保有高	1333億2千万円
主な農産物	米、大麦、大豆、リンゴ、 梨、ブドウ、桃、ダイコン、 ハクサイ、ネギ

「新たなJA営農経済事業支援」 取り組み開始

全農経営企画部JA支援課は令和7年度からJAを取り巻く事業環境の変化に迅速に対応するため、JA全中や農林中金と共に新たな支援に乗り出します。取り組みの中核を担う同課と農林中金営業企画部JA支援グループの専任職員による支援チームを新設し、JAに派遣します。

【経営企画部】

全農・農林中金の 「JA支援全国 サポートチーム」発足

第28回JA全国大会での決議を契機として、各連によるJA営農経済事業支援の取り組みがスタートしました。全農は「全農JA支援プログラム」、農林中金は「JA営農経済事業の成長・効率化プログラム（通称・見える化プログラム）」を展開・実践し、合わせて42県域、169JAで導入しています。

令和5年度には一部県域で両者の強みを持ち寄り、強固な連携をしたプログラム導入を実施し、その有効性を確認しました。これにより、両者が一体となってJA支援に取り組むことで合意しました。

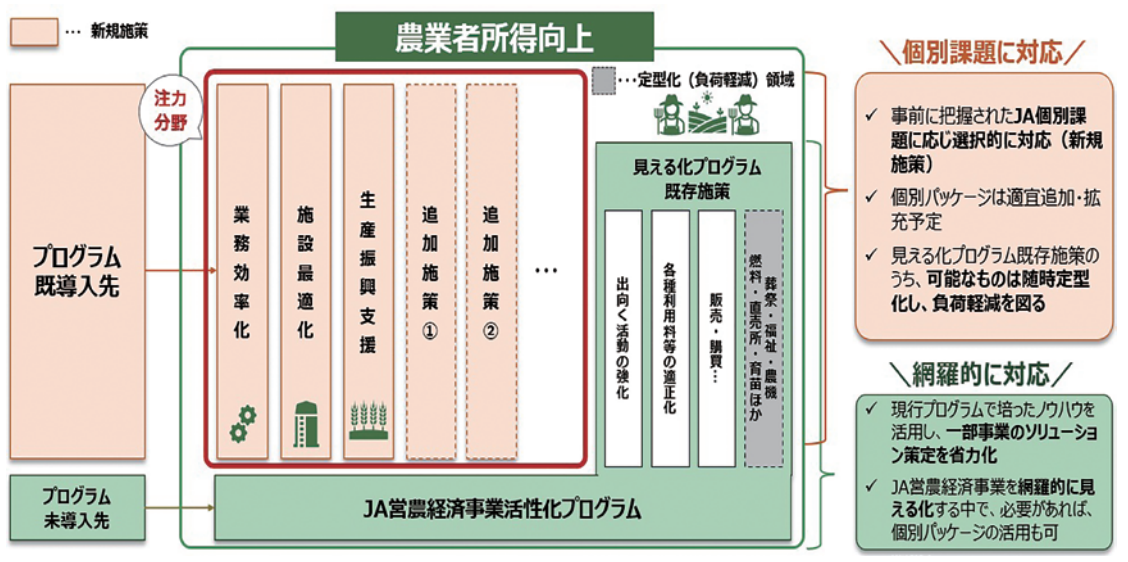
全農・農林中金の全国サポートチーム



全国サポートチーム 業務風景

課題解決へJAに全国サポートチーム派遣
全農・農林中金の強み生かし連携

令和7年度からは、全農と農林中金がJA支援全国サポートチームを東京のJAビルに設け、一体的な支援を進めています。すでに全農や農林中金のプログラムを導入しているJAに対しては、①業務効率化②生産振興支援③施設最適化を中心に、それぞれのJAが抱えている課題を解決するため、JA支援全国サポートチームを派遣し、それを実現するための実行計画の策定支援をします。



取り組み全体像

① 業務効率化の取り組み

業務量調査やJA職員との意見交換を通じ、JA営農経済事業における非効率業務を洗い出し、効率化に取り組むことで、組合員・利用者へのサービス提供などにかける人員・時間の創出の支援を行います。

② 生産振興支援の取り組み

JAの生産振興計画実践上の課題である産地やJAに「人がいない」という課題に対し、「省力化での生産者作業の平準化」「営農指導DXでの効率化」「労働力支援での人員確保」などの対応策（生産振興支援策）の提案・実証を通して、JAの生産振興体制の整備を支援します。併せて、コスト低減や販売拡大など生産振興に関わるメニューを提案・実践することでJA営農経済事業基盤の維持・拡大の支援を行います。

③ 施設最適化の取り組み

JAが主体となって取り組む米麦共同乾燥施設の最適化の支援を行います。具体的には拠点別収支分析やJAの要請に応じた現地調査などの各種分析を通じて、JAの施設最

適化構想を実現する上での課題を明らかにし、JAの施設最適化案の策定を支援します。

一方、全農や農林中金のプログラムを未導入のJAに対しては、JAが抱える営農経済事業の収支の改善に向けた課題を網羅的に見える化し、解決策を示す「JA営農経済事業活性化プログラム」を用意します。JA支援全国サポートチームが約14週間にわたり、常駐し支援します。

④ JA営農経済事業活性化プログラム

全農の「全農JA支援プログラム」と農林中金「見える化プログラム」のノウハウを互いに持ち寄り、JA営農経済事業の課題を網羅的に見える化します。両プログラムで培った既存施策などのノウハウに加え、経済事業システムの強みを生かした中長期視点での施策、JA事業間連携を意識した施策などを立案・実践を支援します。

全国サポートチーム派遣以降は県域組織で横展開

各取り組みにおいて、JA支援全国



JA営農経済事業活性化プログラム常驻メンバー

サポートチームの派遣や常駐は初回に行い、2回目以降は各県域組織が蓄積されたノウハウを活用し、実行計画の策定支援や活性化プログラムの導入を横展開していくことを想定しています。

全中、全農、農林中金は令和7年2月に「新たなJA営農経済事業支援の取り組み」に関する全国説明会を実施し、5月には同取り組みへの導入サポート利用意向調査を各県域組織

に対して実施しています。導入支援の意向を7月末に取りまとめ、9月には各取り組みの導入JAを確定する予定です。

現在は、一部県域で各取り組みを試行導入し、下期からの展開に向けた準備を進めています。JA営農経済事業活性化プログラムの試行導入JAでは、全農県本部からの本部間異動者がチームに参画するなど、プログラムの実践による県域JA支援担当者の育成も進めています。

各取り組みに共通する支援要件として、次の項目を挙げています。

支援要件

- ① JAおよび県域組織の取り組み意志と、取り組みに対する共通の課題認識があること。
- ② JAにおいて企画部署、営農経済関連部署に加えて、必要に応じて関連する他部署による体制構築が可能であること。
- ③ 県域組織で連携した支援体制（進捗フォローを含む）の構築が可能であること。

「ペコパフ(和歌山県産南高梅)」を販売

和歌山県産「南高梅」のパウダーを使ったパフケーキ

全農は株不二家との共同開発商品として、ニッポンエール「ペコパフ(和歌山県産南高梅)」を開発しました。株不二家から、ファーマーズマーケット紀菜柑、不二家のショップ、その他量販店などで期間限定販売をしています。【営業開発部】

ニッポンエール「ペコパフ(和歌山県産南高梅)」は、JAわかやまが供給した和歌山県産「南高梅」のパウダーを使用したクリームを、ふわふわのパフケーキに詰めたチルドスイーツです。パッケージには、JAわかやまのロゴとイメージキャラクター「うめっぴ®」を掲載しています。不二家の人気洋菓子ブランド「ペコパフ」とのコラボ商品を、この機会にぜひお楽しみください。



ニッポンエール「ペコパフ(和歌山県産南高梅)」

「オール横浜」でアルコール飲料

「やるJAん横浜! メロンソーワ」に原料供給

神奈川県本部は、JA横浜が販売しているアルコール飲料「やるJAん横浜! メロンソーワ」に使用されている横浜市産のメロン果汁約500㍑を原料供給しました。【神奈川県本部】

横浜市内の企業や団体、学校と連携して開発をした「オール横浜」の商品。市内の休耕地で栽培したメロンを使用し、加工を目的に作付けした果実を使用することで、農地保全や食品ロス削減に貢献しています。

生の果実に近い豊かな香りを出すことにこだわり、甘すぎずさっぱりとした味わいに仕上げました。

6月5日からJA横浜「ハマツ子」直売所（一部店舗除く）、横浜市内の相鉄ローゼン・京急ストアで販売しています。



果汁1.1%を含みメロンの香りの中に適度なアルコールも感じられるソーワ



JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

かが・のと味自慢

夏を代表する果物スイカは、石川県を代表する果物です。「金沢すいか」は、金沢市の日本海に面した砂丘地生まれで、地下100㍓からくみ上げた地下水を使用し栽培しています。

早朝に砂が一番冷えて、昼間は暑くなり、夜涼しくなる、この寒暖差により「金沢すいか」の甘みが増します。

歯触りの良いシャリ感と糖度の高さが特長の「金沢すいか」。暑い夏にのどを潤し、疲れた体を癒やすのにぴったりです。食べ頃の状態を収穫していますので、商品到着後はどうぞお早めにお召し上がりください。



金沢すいか(3L、1玉)
6月中旬から発送 4480円

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com



『JA全農トピックス』の公式
Xはこちらから



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。